

教養部会教授 菅嶋 康浩

1. 研究活動

2013年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理学的考察	2013. 3	名古屋芸術大学研究紀要	北岡智子、佐藤勝利、木村美奈子、菅嶋康浩、栗津幹子、伊藤由夏、山内恵理子：学生相談室の新入生に対する早急なかつ有効な支援を行っていくために、入学時の心理状況について教育臨床的見地から検討した。
脊髄損傷による筋の機能障がい範囲にレジスタンス・トレーニングは影響を及ぼすか	2013. 3	名古屋芸術大学研究紀要	石田直章、菅嶋康浩：脊髄損傷による筋の機能障がい範囲にレジスタンス・トレーニングは影響を及ぼすかについて、2012 ロンドンパラリンピックパワーリフティング種目日本代表選手1名を被験者としてパワーリフティング中の肩関節周り及び体幹の筋の表面筋電図を導出し、筋電図学的手法により考察した。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 健康と体力	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p><授業形式> power point を活用しスライド提示によるプレゼンテーションを実施。教科書指定はなく、授業のテーマに合う内容の資料収集精査してスライド化する。また全スライドと授業ノートを配布して授業内容の記録に活用させる。学生の授業参加を促すために、配布資料は虫食い穴埋め式になっており、スライド内に出てくるキーワードなどを書き込んでいくようにしている。</p> <p><内容>健康科学の意義目的と本講義の位置づけについて、運動不足の影響、健康の阻害因子についてテーマごとに概説。そして運動実践の意義と具体的方法について紹介する。</p> <p><毎授業での感想レポート>毎授業でテーマに対する感想レポートを書かせて提出させる。これにより健康に関する自分なりの考え方を確立させる。</p>	<p>① power point によるスライド (教科書指定は無く、授業のテーマに合う内容の資料をスライド化)。</p> <p>② 配布資料 (毎時間全スライド)。</p> <p>③ 筆記用授業ノート。 (すべて自作)</p>
授業科目 スキースノーボード教室(健康スポーツ 2:学外授業)(集中授業:3泊4日)	
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p><事前講習等>実習説明会、事前講習会の実施。その際、技術指導の資料を配布。</p> <p><現地講習>現地インストラクターを含めた技術レベル別実技指導の実施。指導者による実習中のビデオ撮影。夕食後班別ミーティングの実施。その際、市販のDVDやビデオ教材と実習中に撮影した映像により技術的チェックとアドバイス指導を実施。自作の自習日誌を配布し、毎日の感想や課題など実習記録を記述させる。</p> <p><課題提出>全日程終了後に実習レポートの提出を義務付ける。</p>	<p>① 配布資料 (オリジナル) 作成。</p> <p>② ビデオ、DVD 資料 (市販)。</p> <p>③ 実習日誌。</p> <p>④ 撮影したビデオ映像資料。</p>

授業科目 卓球（健康スポーツ2）	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p><第1回目>授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。</p> <p><2回目以降>卓球の実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、シングルス、ダブルスなど卓球種目特性の理解を深めるよう授業を展開。シングルス、ダブルスをより理解するためにゲーム（リーグ戦）を採用。実践的技術の取得を図るために、リーグ戦結果に基づき、上位、下位リーグ間メンバー入れ替えを行う。これにより学生のモチベーションの維持・向上を図る。後半は団体戦とし、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通して人間関係を構築する能力を身に付けるようにする。</p> <p><健康維持管理に関する授業>全開講数の中で1、2回健康科学の位置づけとして自己健康管理ができるようになるためのフィットネス講座を実施。学内フィットネス施設を利用して実践方法を指導する。</p>	<p>①健康科学の目的、授業の位置づけと意義についての資料。</p> <p>②卓球技術資料。</p> <p>③リーグ表。</p> <p>④卓球ルールについての資料。</p> <p>⑤団体戦についての説明資料。 (いずれもオリジナル)</p>
授業科目 テニス（健康スポーツ1）	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p><第1回目>授業ガイダンス。健康科学における実技を伴う演習科目として位置づけられた同科目の目標と意義の説明と理解を深める。</p> <p><2回目以降>テニスの実践。技術レベルに応じて、基本的技術の取得、ルールの理解、シングルス、ダブルスなどテニス種目特性の理解を深めるよう授業を展開。シングルス、ダブルスをより理解するために、簡易ゲーム（ストローク合戦、1ポイント勝ち残りゲーム）から正式ルールに準ずるマッチゲーム（1ゲームマッチゲーム、2ゲーム先取ゲーム）へと展開。授業ごとにテーマを決め（例えば、ストロークの習得、ボレーの習得、フットワークを使う、ダブルスにおけるコンビネーションなど）1授業の全体の1/3を技術練習、2/3を実践練習として構成。施設と受講学生数の関係から、</p>	<p>①健康科学の目的、授業の位置づけと意義についての資料。</p> <p>②技術資料。</p> <p>③リーグ表。</p> <p>④ルールについての資料。</p> <p>⑤団体戦についての説明資料。 (いずれもオリジナル)</p>

<p>授業効果を考慮して、主に実践練習にはダブルスゲームを採用。半期間の終盤には団体戦としてゲームを行う。これを通して、チームワークの難しさや面白さを知るとともに、チーム内コミュニケーションを積極的にとることなど、スポーツを通して人間関係を構築する能力を身に付けるようにする。</p> <p><健康維持管理に関する授業>全開講数の中で1、2回健康科学の位置づけとして自己健康管理ができるようになるためのフィットネス講座を実施。学内フィットネス施設を利用して実践方法を指導する。</p>	
<p>授業科目 デザイン基礎演習</p>	
<p><input type="checkbox"/>前期 <input checked="" type="checkbox"/>後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p><第1回目>授業ガイダンス。ものづくり基本と考えられるユーザーの感覚の重要性を心理学的及び生理学的尺度法を用いて理解することを目標とする。</p> <p><2回目以降>SD法による心地よさの分析、筋電図を測り疲労度を調べる。</p>	<p>①目的、意義についての資料。 ②手法等の資料。 ③実験装置の利用。 (いずれもオリジナル)</p>

3. 学会等および社会における主な活動

日本体育学会	1982～現在	正会員
日本体力医学会	1983～現在	正会員
日本バイオメカニクス学会	1985～現在	正会員
日本宇宙航空環境医学会	1985～現在	評議員
日本健康医学会	2004～現在	評議員
北名古屋市ふれあいスポーツクラブ推進委員会	2001～現在	理事
全日本スキー連盟	2006～2012	ブロック技術員
愛知県スキー連盟	2002～2013	専門委員
大口町指定管理審議委員会	2009～現在	委員
大口町生涯学習計画策定委員会	2009～現在	委員長
ウォーキングサークル NEW	2003～現在	代表